

ネズミ浄土・隠岐郡知夫村薄毛

令和2年12月15日掲載予定

収録・解説・酒井 董美 ただよし

イラスト・福本 隆男



https://kanbenosato.com/minwa/kancho_201009.html



語り手 前横ヨキさん（明治26年生まれ）
収録・昭和51年7月31日

あらすじ

昔、じいさんとばあさんがあつて、じいさんが山へ柴刈りに行き、後からばあさんが昼飯に焼き飯を三つ作つて、持つていったが、一つわて食つて、一つ余つた。

「あなた食え」「あた食え」と言つていたら、穴の中に焼き飯が、転がつて行つた。

じいさんは、「惜しい、取つてくるで」と行つたら、地蔵が座つていた。「地蔵さん、焼き飯ども転がつて来なかつたかい」「わしが一口食つて、またくどらかしておいだ」。

先へ行つたら、また、地蔵さんがいた。「地蔵さん、ここ、焼き飯どもがくどれて来えせだつたかいの」「一口食つて、くどらかしてやった」

また先へ行つたら、地蔵さんがいた。「地蔵さん、焼き飯どもがくどれて来えせだつたかいの」「一口食つて、くどらかしてやった」

先へ行つたらネズミが米をついておつた。

「ここのお国は

猫さらおらねば
国やわがもんじやえ
ストトン ストトン

「ニャーオン」とじじが猫の真似をした。「猫が来たつてネズミが、逃げてしまつた。じいさんは、着物をぬいで米を全部持つてもどつた。

「ばばよ。もどつたわい。今日は祝いだ。隣のじいさん、ばあさんと呼んで来い」

隣のじいさんとばあさんと呼んで来ると、

「なんといいことをしたなあ」「そんなら、隣のばばあは、

「このじいさん寝てばっかりおらで、明日は行きてみさつしやいな」「行かあかなあ」

山へ行きて柴を刈つちよつたら、ばばが後から焼き飯を持つて来て、ひとつあて食つて、一つ余つたら、穴ん中へくどらかしてやつて、そいから、

まあ、穴ん中へ入つて行く。地蔵さんに「焼き飯が、くどらかして来なかつたか」「一口食つて、くどらかしてやった」

また、先へ行つたら地蔵さんがおつて、「地蔵さん、焼き飯どもあくどれてけえせだつたかいのう」「一口食つて転がつてやつた」

行きたところ、ネズミが、

案の定、米を搗いて、

「ここのお国は

猫さらおらねば
国わが、国わが

またじいさんが、「ニャーオン」と言つたら、「ゆうべのじいだ。はや味噌つけ、醤油つけ。噛んでやれ、噛んでやれ」と言つてねえ、むちやくちやにじいさんをしてね。焼かれてしまつて。醤油をつけ噛んでしまつた。

解説

一般的におにぎりとか団子を穴に落としてじいさんが、それを追つて地下のネズミの国へ行くが、隠岐地方では焼き飯なる独特の食べ物になつている。これはにぎり飯の外側に小醤油という味噌の一種をまぶし、表面を焼いたのを称し、チャーハンではない。爺婆が食べると一個余る。お互いに譲り合つていると、焼き飯が穴に落ちるスタイルを取るところが、他地方では見られない隠岐地方独特なのである。

（元島根大学法文学部教授）